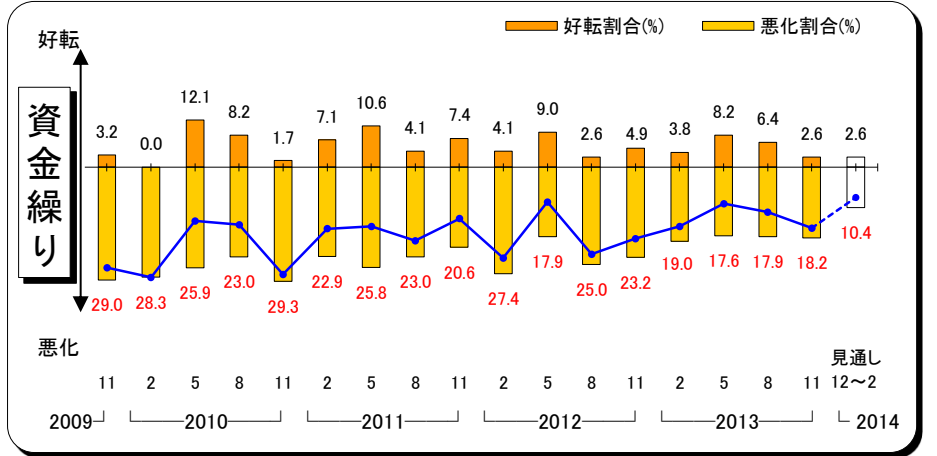
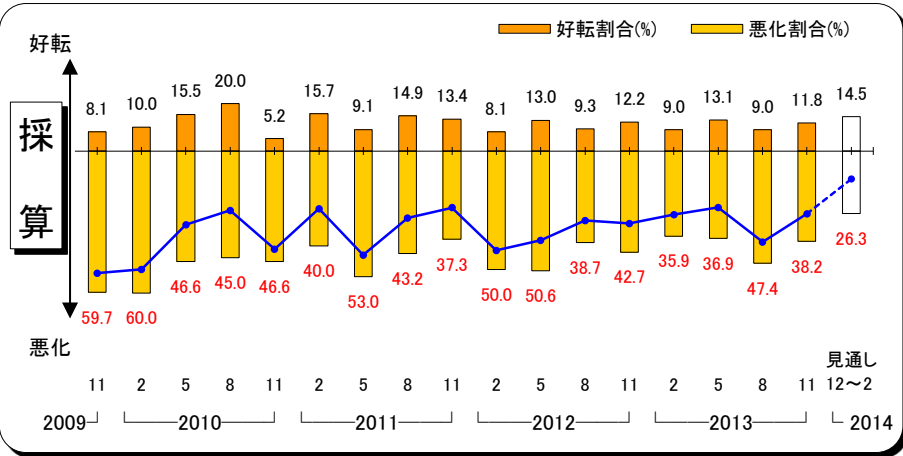
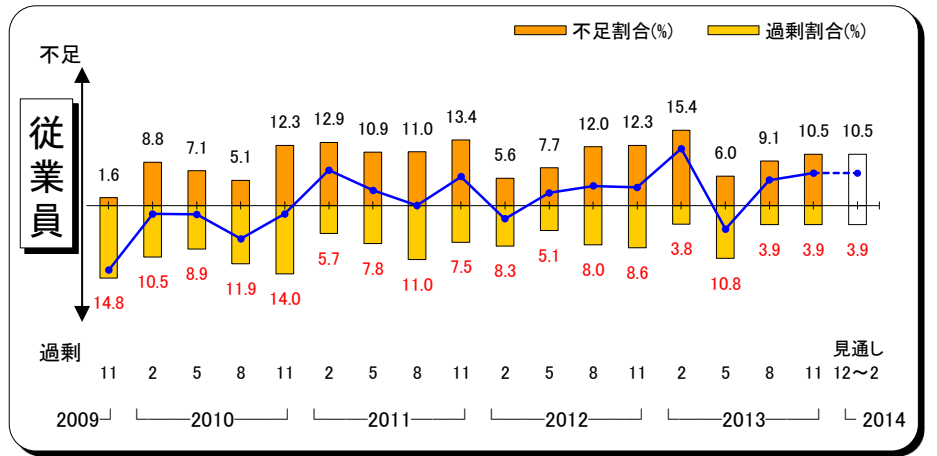
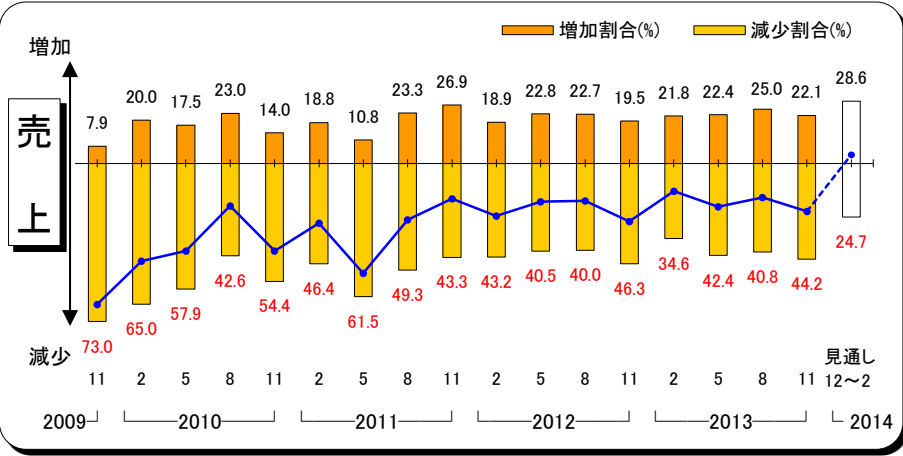
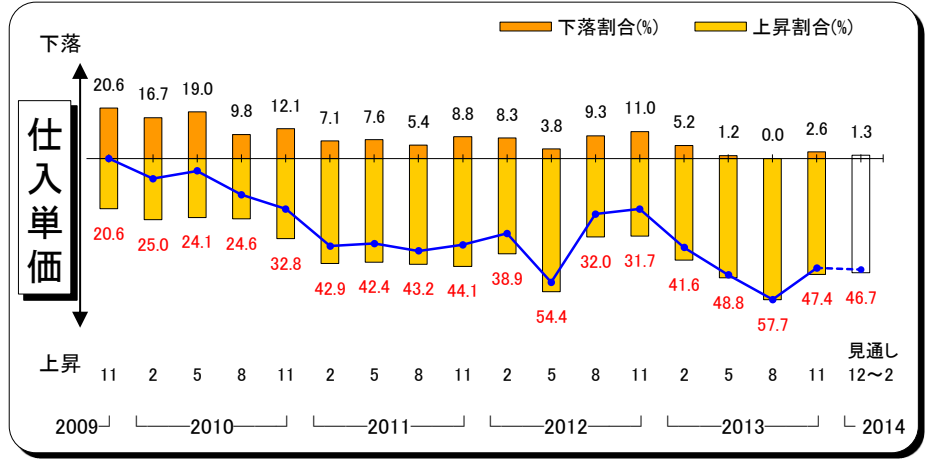
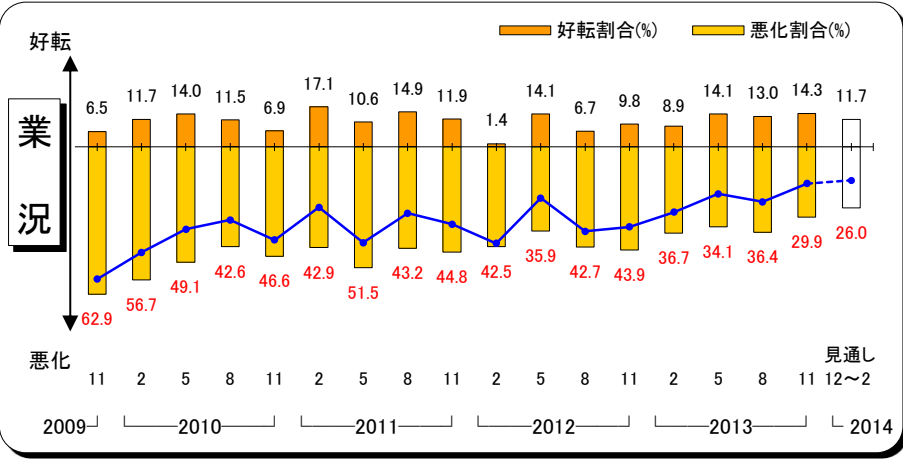


【卸売業】①



【卸売業】②

企業の声（順不同）

かばん・袋物卸売業	消費税率アップの声に、材料費・人件費が重くなる傾向。（千葉市公立中学校対象）販売面では、学校側には理解があると思われるが、父兄の声で価格が左右される恐れあり。
食料・飲料卸売業	食品の原産地、水揚げ地、漁獲時期等の問い合わせが多く、書類の作成等、事務的な仕事が増えています。
食料・飲料卸売業	粉製品や油など、原材料価格の値上がりの声が出て来ています。
食料・飲料卸売業	取引先においては消費税率引き上げにおける買い控え等で、景気は決して良くないので、売上の減少は続いています。左記の影響により、一部で原料事由により値上げになっているものの、商品単価の下落も続いています。また、値上げした商品は当然のごとく売上が落ち込み、代替品を探したりするものの、売上づくりには苦勞しています。当社では、取引がなくなった（廃業等）取引先もありますが、新規取引先の開拓や新規部門開拓で売上は確保しています。
化学製品卸売業	マクロ経済の動向に注目している。
非鉄金属スクラップ卸売業	非鉄アルミ市況は高止まり。米国の金融緩和が縮小の場合、修正安となる。但しリサイクル原料は発生不足、円安による国内生産回復、海外への流出という要因があり、むしろ春まで強持ち合いの基調が続くと思われる。
再生資源卸売業	急激な仕入れ価格の上昇分を価格転嫁できない。
産業機械器具卸売業	2014年の消費税率引き上げに関わる問題が大きい。消費税の対象になる物、ならない物の分別も複雑だ。
産業機械器具卸売業	当社の主な輸出相手国であるインドネシアの経済状況が上り坂から様子見の状態であるため、新規の商売が動かない。しばらくはこの様子見の状況が続くと考えられる。
タイヤ等自動車部品卸売業	北海道・東北にて降雪があり、運送トラック・観光バスにおいて、夏タイヤから冬タイヤへの組替がピークになってきた。気温が下がり、乗用車用・商業車用タイヤのスノータイヤ販売増を期待する。
化粧品卸売業	美容室の件数が増加して、1件当たりの売上が確実に減少しているため、サロンの方で材料に対しての仕入を抑えたうえ、ディスカウントをしなければ売れなくなってきている。但し、美容室の数が多いので、新規で売上を確保するようにしていくつもりである。

【小売業】②

企業の声（順不同）

呉服・服地小売業	鳥インフルエンザの余波で羽毛価格が上昇しているが、年明けには落ち着く見通し。綿製品の仕入価格も若干上昇。全体としては業況に変化なし。
男子服小売業	秋冬物から一部商品の仕入単価が上昇しており、今後消費税の増税分とともに販売価格に上乗せした場合の影響が心配です。
靴小売業	消費税率引き上げに伴う経過措置で、外税での価格表示については安堵しています。
靴小売業	靴の選び方で元気度に大きな違いがあります。良い靴を選べば、歩くだけで姿勢が整いバランス良く筋肉を使うため、身体が整いホメオスタシス（恒常性）の向上が考えられます。
食肉小売業	為替の影響で仕入価格及び包装材価格が高騰し、上昇分を小売価格に転嫁できない為に半期で今までにない赤字を記録した。その上、消費税率の引き上げ分を転嫁できない事態となると非常に厳しい。
米穀類小売業	今年の新米が出揃いました。お客様にピカピカのごはんを、どうか御家族お揃いで御賞味願いたいのですが、現代はご家族団欒の姿が見えません。当店が嫌われたかと心配な程です。
自動車部分品・附属品小売業	カー用品店においては冬商材の販売増加により若干売上高の伸びが期待出来る。例としては、スタッドレスタイヤ、タイヤチェーン等々で、来年2月頃まで需要が増すとされる。
二輪自動車小売業	当業界のトピックとしては、恒常的な二輪車駐輪場不足で販売数、保有台数とも減少している。また、平成18年6月に警察庁が二輪車の駐車禁止取締の強化をさせて以来、平成24年12月末までの6年7ヶ月間で東京都の駐車禁止の反則切符が切られた案件は78万件、総罰金金額も70億円に達し、平成25年1月から6月までの同案件も3万件で、全国の24.5%を占めている。一方、横須賀二輪車安全普及協会が横須賀市と災害時における協定に調印し、バイクによる情報伝達物資の運搬、被災現場の確認等の活動が認められ、さらに一般社団法人日本二輪車普及安全協会が平成25年10月1日に認可発足した。
電気機械器具小売業	粗利の確保が厳しい。キャッシュフローに余裕がない。消費税率アップ前の駆け込み需要が多少あるにせよ、反動の方が大きいと思われる。そこをどのように乗り切るかを問題としている。
電気機械器具小売業	受注単価の下落、同業他社との競合、個人消費の停滞（特に高齢者の動向が気になる）、等の諸問題から、売上高が上がりず採算が悪化している。人材の育成に力を入れ対策を検討しているが、すぐに効果が出ず、苦しい状態が続くと思われる。
医薬品小売業	非常にネガティブな見通しですが、インターネット販売規制緩和により一般OTC（オーバーザカウンター≒薬局等販売）による医薬品売上は下向き不可避、加えて国家予算の医療費削減により、どう考えても将来は明るくないです。
調剤薬局	インターネット販売規制緩和の影響等あり。一般薬の小売はこれからますます厳しくなる。
燃料小売業	昨年末からの円安による仕入単価の上昇を未だに末端価格に転嫁できない。緩やかながら人手不足気味で先行きは悲観的。大型投資により手元資金は減少。
紙・文房具小売業	消費税率引き上げによる環境変化にどう対応するかが課題ですね。
紙・文房具小売業	従来、販売価格は消費税を含んだ全額で表示ということでやって来ましたが、本体金額の表示の場合はソフト面で5%から8%へ変更すれば良いのに、総額表示の場合は全部値札を貼り替えなければならず、大変な作業になります。これがまた10%の時にも同じ作業をしなければならないと思うと気が重くなります。
スポーツ用品小売業	同業大手も厳しいようで、先の見えない消耗戦が続いています。当社もギリギリの経営で、これ以上消費が落ち込むと持ちこたえられなくなります。来春の消費税率引き上げで更に悪化しないよう、政府にはしっかりとした対応をしていただきたい。
時計・眼鏡・光学機械小売業	来年は消費税の増税、景気回復による企業の税金で大幅に税収が増えるそう。それはそうであろう。景気回復とは無縁の我が社もでさえも幾ばくかの税金を納めているのだから。医療費を抑制し、赤字国債を減少させ、後に続く若い世代の負担を少しでも減らしていただきたい。
ホームセンター	消費税率引き上げによる消費の低迷が懸念される。但し、駆け込み需要には期待している。円安により仕入単価が増額しているが、今後は減額に向かうよう期待している。
工業薬品・理化学機器等小売業	アベノミクス効果で少しは景気が上向いてきたところに、消費税率の8%引き上げを決定したことはやや判断が早いと思う。もう1年待って引き上げをして欲しかった。いずれにしても引き上げ後は、景気は多かれ少なかれ落ちると思う。

【サービス業】②

企業の声（順不同）

運輸附带サービス業	円安に依る原材料価格の変動もようやく落ち着いてきている。景況感の上向き傾向も現状では認識出来ない。輸出の好転による景気回復の兆しが業種によってみられるようだが、中小零細企業にはその兆しも見えない。雇用の流動化を懸念したが、未だその傾向はないと思われる。極端な状況変化の舵取りの効く規模でもなし。時折の対処だけではアベノミクスの効果はない。
不動産賃貸業	夏場以降、数年ぶりに貸事務所・店舗に活発な引合い・成約が続き、長期間空室であった物件の稼働率が好転してきました。
建設機械器具賃貸業	原油価格の高騰の影響が大きい。仕入単価が上昇している。
物品賃貸業	ナイト市場の景気動向と夜間取締の状況に注目している。
経営コンサルタント業	弊社はコンサルティング会社ですが、お客様（全業種）が意識として上昇気運となっており、多少なりとも、私どもの業種にも好影響があると思われまます。
建築設計業	消費税増税前の駆け込み需要による一時的な活況の懸念がある。本格的な景気回復の実感はない。
建築設計業	リーマンショック後からはやや立ち直り、2期連続で黒字（10月決算）になったが、先行き見通しは不透明である。特に来年4月以降の消費税率引き上げの影響は未知の世界である。
旅館・ホテル業	我々地場のサービス業ではアベノミクスの効果などはまったく感じ取ることが出来ず、逆に円安の影響から輸入物の原材料価格が高騰して利益率が著しく低くなっている。来春からの消費税増税でも価格が転嫁できるのは一部に限られ、先行きはまったく明るさが見えない。政府には我々のような地方の中小企業の声は届いていないのではないか！
旅館・ホテル業	当業界全体の業況は上昇傾向にあると思う。ただ、千葉市に関しては供給が増えているので、苦しい状況は続いている。
専門料理店	輸入事業は円安と原産地価格上昇により、原価がアップしています。レストランは輸入事業の減少分を補うような形で売上が増えているため助かっています。今後、両部門とも売上増を見込んでいますが、仕入原価の変動がどう影響するかが分かりません。また、消費税率アップの前後の動向についても、どう判断するかが重要だと思います。
そば・うどん店	原材料価格の値上がり及び個人消費の減少（消費者の低価格弁当購入等への動き）により、配達の激減が影響している。
機械修理業	近隣の工事等は増加にて基礎工事は好転の様子。単価はさほど上がっている様子はいかがえませんが、車輛の盗難等犯罪被害が多発しているとかかなり強く感じられます。被害に対して検挙はものすごく低下していると思われまます。トラック・建機の盗難被害は、人身が絡まないもので、再犯が激増するのもかも知れないですね。
ビルメンテナンス業	建設資材、石油製品の価格上昇が収益を圧迫している。
ビルメンテナンス業	幕張新都心や市原などで、大きなショッピングモールのオープンが相次ぎ、当社が求人募集をかけても人が集まらない状況が続いている。
ビルメンテナンス業	新規の資機材導入による原価や人件費等の削減に期待。従業員の高齢化もあり、人員が不足している。